

裾野市学校教育施設再編基本計画に関する答申書  
～具体的な再編対象学校及び再編の時期について～

令和5年2月27日 答申

裾野市学校教育施設再編基本計画審議会

村山 功	豊福 静代	石原 誠太	柴田 寛文
大森 裕樹	眞田 裕介	福澤 義明	岩崎 正行
丸山 雅人	飯塚 由美子		

## はじめに

裾野市学校教育施設再編基本計画審議会は、令和4年12月6日に裾野市教育委員会から、現在策定中の裾野市学校教育施設再編基本計画のうち、4 具体的な再編計画（2）再編対象学校及び再編の時期について諮問された。

裾野市の教育のあり方検討委員会による提言書、全88回・計1000人以上の保護者、地域、生徒等に向けて行われた意見交換会での意見、教員アンケート、裾野市学校教育施設再編推進本部及び同検討委員会での協議内容をもとに議論を重ねてきた。

将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境を整えることを第一に考え、討議を重ね取りまとめたので、ここに本審議会の検討結果を答申する。

なお、裾野市学校教育施設再編基本計画を策定される際には、本答申の内容を尊重されたい。

令和5年2月27日

裾野市学校教育施設再編基本計画審議会

会長 村山 功

## 1 再編対象学校及び再編の時期について

### ① 向田小学校と東小学校の再編（統合）【前期における取組み】

#### 【教育委員会の素案】

向田小学校は適正規模を下回る 10 人以下の学級が存在しており、将来的にも適正規模を大きく下回る予測がされていることから、その解消を図るとともに、東中学校へ進学する際の環境の変化等のギャップを解消するため、令和 7 年度に東小学校との再編（統合）を進めます。再編（統合）校舎は現在の東小学校校舎とします。

なお、向田小学校の跡地については、現在の東中学校を移転します。向田小学校の閉校後、校舎の長寿命化改修や不足する特別教室の整備等を行い、令和 10 年度を目途に移転できるよう努めます。

#### 【審議結果】

素案の修正なし。取組みが確実に実行されるよう努めること。

### ② 富岡第二小学校と富岡第一小学校の再編（統合）【前期～中期における取組み】

#### 【教育委員会の素案】

富岡第二小学校は適正規模を下回る 10 人以下の学級が複数存在しており、今後も適正規模を大きく下回る予測がされていることから、その解消を図るとともに、富岡中学校へ進学する際の環境の変化等のギャップを解消するため、令和 9 年度を目途に富岡第一小学校との再編（統合）を進めます。再編（統合）校舎は現在の富岡第一小学校校舎とします。

#### 【審議結果】

再編対象学校及び再編の時期について、素案の修正なし。

ただし、再編（統合）に伴い、安全な通学手段の確保が最重要課題である。

児童や保護者にとって過重な負担とならないよう、スクールバス等の運行、既存路線バスの拡充、通学費の補助等、各学校の実情に合わせた通学方法を検討するだけでなく、スクールバス等の乗降場所やロータリー等の設置、学校行事等における保護者の駐車場の拡大についても検討すること。

また、通学区域の変更に伴う通学路の整備、学校・教育委員会・道路管理者・警察等の関係機関との連携、保護者・PTA・近隣住民等による見守り活動、ICT を活用した見守りシステムの導入、既存のサービスや機器等を保有する企業や団体との連携など、登下校時の安全確保に向けた取り組みを実施すること。

### ③ 須山中学校と深良中学校と富岡中学校の再編（統合）【中期～後期における取組み】

#### 【教育委員会の素案】

須山地区と深良地区は小学校1校、中学校1校であるため、9年間同じ環境となっており、須山中学校では全学年が単学級、深良中学校でも将来的には単学級が発生する可能性が高い状況です。

そのため、単学級の解消とともに、生徒のニーズに応じた多様な部活動等の課外活動の充実を図るため、富岡中学校との再編（統合）を進めます。再編（統合）校舎は現在の富岡中学校校舎を前提としながらも、敷地の拡張による（仮称）北中学校の新設も視野に検討します。

#### 【審議結果】

再編対象学校及び再編の時期について、素案の修正なし。

ただし、再編（統合）に伴い、安全な通学手段の確保が最重要課題である。

生徒や保護者にとって過重な負担とならないよう、スクールバス等の運行、既存路線バスの拡充、自転車通学、通学費の補助等、各学校の実情に合わせた通学方法を検討するだけでなく、スクールバス等の乗降場所やロータリー等の設置、学校行事等における保護者の駐車場の拡大についても検討すること。

また、通学区域の変更に伴う通学路の整備、学校・教育委員会・道路管理者・警察等の関係機関との連携、保護者・PTA・近隣住民等による見守り活動、ICTを活用した見守りシステムの導入、既存のサービスや機器等を保有する企業や団体との連携など、登下校時の安全確保に向けた取り組みを実施すること。

再編（統合）により須山地区・深良地区・富岡地区の歴史や伝統行事等を従前の地区を超えて学習・参加できる機会となることから、地域の積極的な学校運営への参画を促し、地域に開かれた教育課程の中で広く学習できる環境を構築すること、及びそのために必要な予算等を確保すること。

### ④ 須山小学校の小規模特認校制度の導入【中期における取組み】

#### 【教育委員会の素案】

須山小学校は近い将来10人以下の学級が発生する可能性が高く、将来的には複式学級が発生する可能性があります。

適正配置の観点から全市的なバランスを考慮した結果、須山小学校を存続させ、適正規模に近づけるため、須山小学校に小規模特認校制度を導入します。

### 【審議結果】

再編対象学校及び再編の時期について、素案の修正なし。

ただし、適正規模に近づけ、学校を存続するためには、継続的に新規入学者を確保しなければならない。そのための小規模特認校制度の導入であるが、実効のある制度にするためには、「地域で学校を支える・盛り上げる」という想いを地域一人一人が共有する必要がある。

子どもとは、地域の未来であり希望そのものである。また、子ども自身も含めたあらゆる世代の地域住民は、同世代を生きる仲間である。あらゆる世代が仲間として積極的に参加できる交流の場を創出することで、「自分たちも主体的に関わって良いのだ」ということを体感で理解してもらいつつ、地域・学校・教育委員会が連携し、須山小学校における学習の「特色」を地域も一体となって考え、見出し、再編前から魅力発信に努めること。

## ⑤ 千福が丘小学校と富岡第一小学校の再編（統合）【中期～後期における取組み】

### 【教育委員会の素案】

千福が丘小学校は近い将来、適正規模を下回る10人以下の学級が発生する可能性が高く、将来的には適正規模を大きく下回る予測がされていることから、その解消を図るとともに、富岡中学校へ進学する際の環境の変化等のギャップを解消するため、富岡第一小学校との再編（統合）を進めます。再編（統合）校舎は現在の富岡第一小学校校舎とします。

### 【審議結果】

再編対象学校及び再編の時期について、素案の修正なし。

ただし、再編（統合）に伴い、安全な通学手段の確保が最重要課題である。

児童や保護者にとって過重な負担とならないよう、スクールバス等の運行、既存路線バスの拡充、通学費の補助等、各学校の実情に合わせた通学方法を検討するだけでなく、スクールバス等の乗降場所やロータリー等の設置、学校行事等における保護者の駐車場の拡大についても検討すること。

また、通学区域の変更に伴う通学路の整備、学校・教育委員会・道路管理者・警察等の関係機関との連携、保護者・PTA・近隣住民等による見守り活動、ICTを活用した見守りシステムの導入、既存のサービスや機器等を保有する企業や団体との連携など、登下校時の安全確保に向けた取り組みを実施すること。

## 再編対象学校及び再編の時期一覧

	前期 (R5～R9)	中期 (R10～R14)	後期 (R15～R19)
①	向田小学校と 東小学校の 再編 (統合)	向田小学校 跡地への 東中学校の移転	
②		富岡第二小学校と 富岡第一小学校の 再編 (統合)	
③		須山中学校と深良中学校と富岡中学校の 再編 (統合)	
④		須山小学校の 小規模特認校制度の導入	
⑤			千福が丘小学校と 富岡第一小学校の再編 (統合)

## 2 その他、検討すべき事項

### 特別支援教育の基本的な考え方について

児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、本人、保護者及び専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から、就学先の学校や学びの場を判断することが必要である。

これらを踏まえ、学校再編に伴い特別支援学級や通級指導での指導が必要となった場合は、その環境を当該学校で整えるとともに、継続的に学びの場を検討し、児童生徒が適切な教育を受けられるよう特別支援教育の充実を図ること。

### 3 次期 教育大綱（教育振興基本計画）の策定時に検討すべき事項

本審議会では、学校再編に伴う課題だけに留まらず、今後の裾野市の教育のあり方についても討議された場面があった。学校再編と裾野市全体の教育をどう進めていくかは一体不可分な関係にあることに鑑み、審議会において委員より指摘のあった事項やアイデアを以下に示すので、次期 教育大綱（教育振興基本計画）策定時に本内容について検討されたい。

- ・好奇心を中心に据えた子どもとともにつくる学びの場について検討すること。
- ・特別支援教育を必要とする児童生徒は増加の一途をたどっている。施設等の整備だけではなく、対象となる児童生徒を支える人材の確保についても検討すること。

あわせて、特別支援及びインクルーシブ教育のあり方についても検討すること。

- ・今後も進む人口減少の中では、学校に参画する人材も減少していくことが予想される。人材不足への対策として、ICT を活用し、現場の業務効率化・生産性向上への取り組みを行うこと。

## おわりに

これからの子どもたちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、高い志と意欲を持って、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自らを問い立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

子どもとは、一人一人が個性も好奇心も将来の夢も異なる、主体的で特別な存在である。決して大人が「理想の子ども像」を押し付け、可能性を狭めることはあってはならない。

再編対象学校においては、ICT環境整備はもちろんのこと、デジタルとは対極となる農業体験やものづくり体験など五感を通じて学べる仕組みについても深く検討し、関わる人・文化・伝統が増えたことで、教育の幅が広がった、再編して良かったと全ての人が実感できるような温かみやワクワクにあふれる学校再編になることを切に願う。